

人を  
診る力。



Hey  
Dr.!

研修は  
富山県!

VOL.6

平成24年9月発行



## 目次

1. 富山県内の臨床研修病院紹介 …P1
2. へき地医療体制について …P2
3. 県内臨床研修病院からのメッセージ（県西部）
  - ★病院長から学生のみなさんへ
  - ★当院の必見診療科

高岡市民病院 …P3~P8

富山県済生会高岡病院

厚生連高岡病院

金沢医科大学氷見市民病院

市立砺波総合病院

南砺市民病院
4. 第4回富山県医師会と医学生・研修医が語る会 …P9
5. 医学生夏セミナー開催報告 …P10

# 富山県内の臨床研修病院



病院名	所在地	病床数	後期研修	電話番号
黒部市民病院	黒部市三日市 1108-1	<414床>	○	0765-54-2211
富山県立中央病院	富山市西長江 2-2-78	<735床>	○	076-424-1531
富山市立富山市民病院	富山市今泉北部町 2-1	<595床>	○	076-422-1112
富山大学附属病院	富山市杉谷 2630	<612床>	○	076-434-2281
富山赤十字病院	富山市牛島本町 2-1-58	<435床>	—	076-433-2222
富山県済生会富山病院	富山市楠木 33-1	<250床>	○	076-437-1111
高岡市民病院	高岡市宝町 4-1	<476床>	○	0766-23-0204
富山県済生会高岡病院	高岡市二塚 387-1	<270床>	○	0766-21-0570
厚生連高岡病院	高岡市永楽町 5-10	<681床>	○	0766-21-3930
金沢医科大学氷見市民病院	氷見市鞍川 1130	<250床>	○	0766-74-1900
市立砺波総合病院	砺波市新富町 1-61	<514床>	○	0763-32-3320
南砺市民病院	南砺市井波 938	<180床>	○	0763-82-1475

# へき地医療体制



富山県のへき地医療体制をご紹介します。

## 1. へき地とは

へき地とは、無医地区、無歯科医地区、無医地区に準ずる地区、無歯科医地区に準ずる地区、その他へき地診療所が設置されている等、へき地保健医療対策の対象とされている地域です。

無医地区	無医地区に準ずる地区
原則として医療機関のない地域で、当該地区の中心的な場所を起点としておおむね半径4kmの区域内に50人以上が居住している地区であり、かつ容易に医療機関を利用することができない地区	人口が50人に達しないなど無医地区には該当しないが、巡回診療などにより、無医地区に準じた医療の確保が必要な地区

## 2. 富山県の状況

富山県では、6つのへき地医療拠点病院と3つのへき地診療所がへき地医療を担っています。



へき地医療拠点病院では、無医地区・無医地区に準ずる地区の住民のために、巡回診療を行ったり、診療所の医師が不在の場合に代診医を派遣しています。

病院が近くにない地域の人々にとって、医療を提供する大切な役割を果たしています。



## 3. 平成23年度実績



巡回診療の様子

平成23年度は、6つの地域医療拠点病院により合計27地区で542回の巡回診療が実施されました。また、へき地診療所への代診医派遣は公立南砺中央病院と南砺市民病院によって合計65回行われました。

へき地診療所では、医師1名と看護師（平診療所は1名、上平・利賀診療所は2名）が住民の健康を守っています。

地域医療に興味をお持ちの方は、へき地医療拠点病院を見学してみてもはいかがでしょうか！

# 1 高岡市民病院

## 病院長から学生の皆さんへ



氏名 澤崎 邦廣  
診療科 外科  
出身大学 金沢大学

本院は高岡医療圏33万人の住民が地元で安心して一生を終えられるよう、地域で完結する医療を目指し、頑張っています。

当院の役割は“がん”や循環器系疾患の診療といった高度急性期医療を提供するだけでなく、救急、精神科、感染性疾患といった政策的医療も提供することにあります。

そのために使命感を持つ優秀な人材が育っており、大変活気にあふれた病院です。

臨床研修病院に関しては基幹型、協力型の研修病院として、金沢大学、富山大学はもちろん、昭和大学、東京女子医大など多彩な大学の卒業生を受け入れてきました。当院では個人の希望を十分に取入れたカリキュラムを採用し、柔軟に対応できることが特徴です。経験すべき症例は十分にあり、マンツーマンで指導にあたります。2年間の研修で確実に医師としての成長を感じることができます。そしていろいろな先輩医師の生き方を参考にし、興味のある診療科を短期でも経験することができますので、将来の自分の進むべき道を見つけることができますと思います。卒業時進路に迷っている方は、ぜひ研修先に考えてください。



## 当院の必見診療科

### 麻酔科・集中治療科

救急の研修は、4名の指導医（麻酔指導医、日本救急医学会専門医）と1名の麻酔科医のもとで研修を行います。最初の2ヶ月間は救急医療に必須の基本的な手技を徹底的にトレーニングし、周術期全身管理を通して循環・呼吸・代謝・疼痛管理などの知識を深め、急変への対応の仕方、考え方を身につけます。研修は指導医とマンツーマンで行い、習熟度にしたがってより高度な手技（中心静脈穿刺、気管切開、硬膜外穿刺など）も経験でき、さらに集中治療室で重症患者管理も研修してもらいます。希望者には、残りの1ヶ月間協力病院の救命センターで研修することもできます。研修期間中積極的にAHA公認BLS・ACLSやJPTEC・JATEC講習も受講できます。高岡医療圏は二次輪番体制が確立しており、各病院と救急隊との連携が良く、当院は救急医療の中心的役割を担っています。当科に限らず研修に熱心な指導医が揃っています。自然に恵まれ、食べ物も美味しい高岡で臨床研修をしてみませんか。（副院長 遠山 一喜）

### 研修の感想（研修医 高島 萌）

当院では教育熱心な指導医のもとマンツーマンで救急・麻酔の研修が行われます。ルート確保、バックマスク換気、気管挿管など救急・麻酔で必須の手技をしっかり身につけることができます。またバイタルの見方を学び、その管理を経験することができます。週に一回行われる勉強会では、4名の指導医からフィードバックを受けながら楽しく勉強していきます。充実した研修を過ごすことができますと思いますので、ぜひ当院での研修を考えてみて下さい。



## 2 富山県済生会高岡病院

### 病院長から学生の皆さんへ



氏名 飯田 博行  
診療科 内科(腎臓・高血圧)  
出身大学 金沢大学

当院は、診療科16科、病床数270床を有する高岡市の中核病院です。臨床研修病院の指定、富山県がん診療地域連携拠点病院の指定、日本医療機能評価機構による認定およびWHO・ユニセフによる「赤ちゃんにやさしい病院」の認定を受けています。高岡医療圏の二次救急病院として救急医療を担うとともに、がんをはじめ生活習慣病や高齢者の医療を積極的に行っています。また、人工関節置換術、内視鏡下手術など当院の強みを生かした専門的医療、在宅緩和ケアにも取り組んでいます。当院の医師、看護師、コメディカルスタッフは、親しみとぬくもりのある社会福祉法人恩賜財団済生会の理念に則り、安全で質の高いチーム医療を推進しています。

当院では、内科・小児科・外科・整形外科・産婦人科などそれぞれの診療科に臨床経験豊富な研修指導医がおり、熱心に指導します。研修医はcommon diseasesを数多く経験し、総合診療能力を身に付けることができます。

高岡は歴史と文化のまちであり、海の幸・山の幸に恵まれた住み良いところです。当院で初期臨床研修を受けられることをお勧めし、心から歓迎します。



### 当院の必見診療科

#### 内科

内科医は10人(循環器3人、消化器2人、内分泌・代謝2人、呼吸器1人、腎・高血圧2人)の少数精鋭で、AMIに対するPCI等のInterventionを含め、2次救急から、入院患者の検査、治療、外来診療まで、それぞれの専門性をいかしながら、日々精進しています。

毎朝の新患カンファレンス、週末夕方の全体カンファレンス、抄読会を行い情報を共有しています。

若い内科を目指す先生方には、ぜひ当院内科に加わっていただき、我々を刺激していただきたいと期待しています。

副院長・内科部長  
中林 智之



# 3 厚生連高岡病院

## 病院長から学生の皆さんへ



氏名 亀谷 富夫  
診療科 内科  
出身大学 金沢大学

当院の理念は「患者さまが信頼・安心・満足できる病院を目指します」ですが、研修医も含め職員も「信頼・安心・満足できる病院」を目指しています。

当院は呉西地区の3次救命救急センターですが、当院の研修の最大の特徴は、救急医療にあると思います。救急研修では救急車で来院した患者さんを救急専門医と一緒に診察・治療をしていただいております。熱心な指導医も多く、症例の数も種類も豊富で、研修された先生からも評判が良好です。研修後引き続いて救命救急科に後期研修をされた先輩も多くおられます。

救急以外にも内科、外科をはじめとして多くの優秀な専門スタッフがあり、初期研修に必要な基本的な態度、技術のみならず、高度医療に関しても研修できます。内科は循環器、消化器、代謝・内分泌、腎、呼吸器、血液、腫瘍内科、神経内科など臓器別にあり、希望に応じて研修ができます。外科系では腹部外科を中心に胸部血管外科・整形外科など手術症例が豊富で、ほぼすべての分野の研修ができます。多くの学会の研修施設に認定されています。ぜひ、当院で初期研修をされることをおすすめします。



## 当院の必見診療科

### 救命救急センター

当院は、急性期を主体とした総合病院であり、特に併設の救命救急センター、ICU・NICUにて充実した救急医療を研修できます。二次・三次救急、麻酔症例も多く、充実度 NO. 1。

救命救急センター医師とマンツーマンで研修できる環境は、他ではなかなか得られないものと思います。また、小児科医、産婦人科医のスタッフが、NICUを含めた県西部の小児救急と周産期救急の中心的な役割を果たしています。



# 4 金沢医科大学氷見市民病院

## 病院長から学生の皆さんへ



氏名 高島 茂樹  
診療科 一般・消化器外科  
出身大学 金沢大学

平成23年9月1日に氷見市鞍川地区にて新病院が開院し、新たに患者さんの早期社会復帰に向けた「回復期リハビリテーション病棟」や予防医療を推進する「健康管理センター」を新設しました。また、本学病院(金沢医科大学病院)との交流も活発に行っております。

当院は、経営健全化を目指して新たな取組みを始めている病院です。医学を人間性、科学性、技術性、社会性、倫理性の側面から捉え直し、少子高齢化の最前線にある当院で研修することは、医師として、社会人として、その第一歩をしるすのにふさわしい病院であると信じます。

是非、病院見学にお越し下さい。お待ちしております。



## 当院の必見診療科

### 一般・消化器外科

一般・消化器外科では、基本手術手技の研修、上部消化管内視鏡検査における手技と診断における研修、下部消化管内視鏡検査の見学研修、各種画像診断の研修、周術期管理研修、外科系救急医療研修を主に行います。

また、研修医が心がけるべき点として、医師であるが、一社会人としての常識と責任感を持って行動すること。病院スタッフとの良好なコミュニケーションがとれること。知識、技術の習得には積極的であること。この3点をお願いしています。

“百聞は一見に如かず”という言葉にもありますように、是非とも当院へお気軽にご見学にお越し下さい。スタッフ一同お待ちしております。(一般・消化器外科長 齋藤 人志)

### 研修の感想(研修医)

手技です。採血にはじまり、動脈穿刺、腹腔穿刺、胸くう穿刺、トロッカー挿入、CVC挿入、気管支鏡、内視鏡、救急外来でのファーストタッチなど、きりがありません。全上級医・指導医が科の垣根を越えて指導してくれます。

私を例に挙げて申し訳ないのですが、内科を回って2か月で腹腔穿刺廃液18回、胸くう穿刺3回、CVカテーテル挿入4回、動脈穿刺の血ガスは星の数くらいです。こんなに多くの手技を研修医1年目でさせてもらっているのは周りの同期に聞いてもなかなか無いと思います。



# 5 市立砺波総合病院

## 病院長から学生の皆さんへ

－ 充実研修に加え、ハルピン訪問や  
ドクターヘリで有名な千葉北総病院でのオプション研修 －

当院は、地域の中核病院としての総合力のみならず地域住民の方々に最も近い第一線病院としての特長があります。また、1981年から30年以上にわたって中国ハルピン市にある黒竜江省医院（27階 2000床）と毎年相互に職員を交換派遣しています。そして、2012年から新たに「研修医派遣」も始めました。これは自分自身や日本国自体を海外から見つめ直す大変良い機会だと考えています。私自身、2011年9月に同院を訪問したとき大地から湧き出てくるようなパワーを体感し、急速に発展しつつある中国の息吹に圧倒されました。この大陸パワーを直接肌で感ずることは、今後の人生ならびに世界観の構築にきっと役に立つことでしょう。

医学部卒業までの長い学校生活では、如何に効率よく正解に到達するかを訓練されてきました。しかし、医師は、正解自体が有るのか無いのか分からない課題に取り組まなければなりません。また、相手を思いやる心や感謝の気持ちを抱ける人間性を獲得しなければなりません。その点、当院では救急外来をはじめ多くの患者さんとの出会いがあります。その出会いの中で人間性が磨かれ、現場での数多くのジャッジが知識を血肉にしていくと自負しています。また、当院には人間性に満ちたロールモデルとなるべく優秀な臨床医が多数揃っています。これらの医師と共に働くことにより、暗記よりも大事な「人間力」や「判断力」を培っていただけると確信しています。



院長 伊東 正太郎  
診療科 脳神経外科  
出身大学 金沢大学



## 当院の必見診療科

内科 副院長・内科主任部長・金沢大学臨床教授 河合 博



当院の内科スタッフは15名、そのうち50歳以上は50歳の私を含めて3名のみです。514床を有する砺波医療圏の中核病院として機能する一方内科のみならず多くの診療科の主要スタッフに若いドクターが多く明るい雰囲気の中で働くことができます。もちろん、当院は内科教育病院、がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院であり、内科系外科系共に多彩な症例を経験することができます。救急医療においても「日本医科大学千葉北総病院救命救急センター」と研修協定を結んでいますので、同病院にて本格的な救急医療に触れるオプションもあります。

当院の特徴は中核病院でありつつ規模は大きすぎず、一方で診療科に穴がなく内科、外科、整形外科、脳外科、産婦人科はもちろん、すべての診療科に複数の中堅ドクターがそろっていることです。規模が大きすぎず小さすぎず診療科間の風通しがよく気持ちよく働くことができます。各診療科が仲良い証としては、砺波でゴールインしたドクターがとても多いこともあります。現在も5人は在籍しているでしょうか。砺波で研修することで専門を決めていない状態でも救急からすべての診療科を経験し自分の方向性を決めていくこともできます。地域の方々の人柄も暖かく、富山にも金沢にも約30分でアクセスできる明るい雰囲気のとなみ野の中核病院での初期研修をぜひ考えてみてください。



# 6 南砺市民病院

## 病院長から学生の皆さんへ



氏名 南 眞司  
診療科 内科・リハビリテーション科  
出身大学 金沢大学  
趣味等 テニス、おいしくお酒を飲む事

☆☆☆☆ 南砺市民病院が目指している医療 ☆☆☆☆

1. 超高齢社会の南砺市で市民と共に「幸せに生涯を過ごせる街づくり」。
2. 「地域包括医療・ケア」体制を作り上げ、医療や保健、介護・福祉だけでなく、行政や市民と共に患者・家族の笑顔（QOL）を支える。
3. 専門医と総合医・家庭医が協力し、高齢者・障害者の QOL を支援する。

☆☆☆☆ 研修医へのメッセージ ☆☆☆☆

1. 南砺市民病院は「確かで温かい医療」を目指しており、患者・家族の笑顔を支える温かい思いを持ち、疾患に対して確かな診療ができる医師になるように期待しております。
2. プライマリケア、全人的医療や総合医・家庭医を目指す若手医師には、南砺市民病院や南砺市はとても素敵な研修環境です。



## 当院の必見診療科

### 総合診療科

1. 本人の将来的な希望を聞いてから、プログラムを組み立てています。患者と向き合うことを原点として、研修を通じ医師として必要な人間性や社会性を身につけ、患者の生活まで看れるような、全人的医療に不可欠なプライマリケアを中心に学びます。

- ① アットホームな雰囲気です。常時 10 数人の各専門領域を担当する指導医と自由にディスカッション。
- ② 各専門医のほかに総合診療医がおりプライマリケアの質を高めている。
- ③ プライマリケア研修のための講義が毎週水曜日に各専門医から提供されている。
- ④ 当院の立地上 1～3 次救急患者の初期対応を行い、全ての領域の救急患者を診療できる。
- ⑤ 高齢者は、1 人で多疾患を有する患者が多く、プライマリケアの実践に最適。

2. 県内で最初の家庭／総合診療医を育成するプログラムを認定された施設である。

### 研修の感想（研修医）

南砺市民病院で研修を初めてもう半年が経とうとしています。研修は内科から始まります。南砺市民病院では総合内科として幅広い疾患を診療することができます。そのためこの半年だけでも非常に濃い研修をさせてもらっているなと感じています。地域医療に興味のある方ならきっと感動することがたくさんあると思います。ぜひぜひ一度おいで下さい！



# 臨床研修制度を考えよう

## ★第4回富山県医師会と医学生・臨床研修医が語る会を開催します★

富山県医師会では、医学生の皆さんと医師のキャリアについて考えるために、「第4回富山県医師会と医学生・臨床研修医が語る会」を開催します。

日時：平成24年10月21日（日） 10:00～16:30（昼食付き、参加無料）  
場所：パレプラン高志会館 富山市千歳町1-3-1

今回、特別講演の講師としてお招きする蓮沼直子先生は、秋田大学医学部総合地域医療推進学講座の助教としてご活躍されているほか、女性医師支援や男女共同参画にも積極的に取り組まれています。全国各地で講演をされている方ですので、ぜひこの機会にお話を聞いてみてはいかがでしょうか。

当日は、富山大学附属病院卒後臨床研修センター長の鈴木道雄先生の講演に加え、先輩医師の体験談も予定しています。「臨床研修制度ってよくわからない」、「卒業後の進路はどうやって決めればいいのか」、「結婚や育児によって働き方を変えなければならないのか」など将来のキャリアに関する疑問を持っている方は、なんでも質問してください。

### 第4回富山県医師会と医学生・臨床研修医が語る会

平成24年10月21日（日） 10:00～16:30  
パレプラン高志会館 富山市千歳町1-3-1

- テーマ「医師のキャリアのなかで臨床研修医制度を考える」
- 特別講演：秋田大学医学部 蓮沼直子 先生
- 講演：富山大学附属病院卒後臨床研修センター長 鈴木道雄 先生
- 先輩医師の体験談
  - 医師のキャリアについて（仮題）
  - 初期臨床研修と育児
- ワークショップ『よい臨床医師になるということ』
  - グループ討論
    - 病院や診療科の仕事の紹介、診療科の選択
    - 医学生の考えるできる医師とよい医療とは？
  - グループ発表

県内病院の研修医・指導医も参加！

参加費無料

申込締切日 10月10日（水）

お申込先 富山大学医学教育学教室  
utme@med.u-toyama.ac.jp

①氏名、②学年、③連絡先メールアドレス  
をご記入の上、お申込みください。



主催：富山県医師会

共催：NPO富山医療教育支援センター・富山県・日本医師会

後援：富山大学（申請中）

### ★ワークショップも行います★

昼食の後は、県内病院の研修医を交えたワークショップを予定しています。

各病院の指導医などから診療科の紹介を受け、将来どのように診療科を選択するべきかを考えます。また、「よい医師」とはどんな医師か、そのような医師になるためにはどうすればいいかというテーマも取り上げます。

実際に診療科選択の時期を迎えている研修医と一緒に、皆さんの将来を考えてみませんか。

### ★お申込み方法★

お申込みは、富山大学医学教育学教室  
utme@med.u-toyama.ac.jp にメールでお申込みください。

申込締切は、平成24年10月10日（水）です。

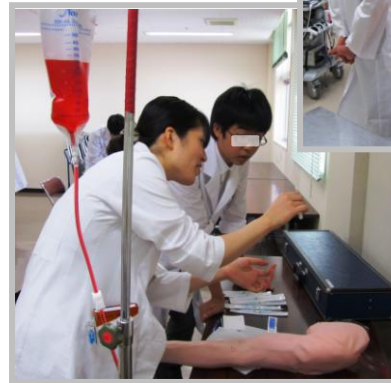
たくさんのご応募をお待ちしています！

# 夏 セ ミ ナ ー 開 催 報 告

8月17日（金）～8月21日（火）に、「医学生夏セミナー」を開催しました。

8月17日に開催した「入門編」には、4大学から10名の方が参加してくださいました。8月20日、21日開催の「実践編」では、7大学から26名の方が参加してくださいました。

当日は、手術室やICUなどの病院見学や、シミュレーターを使った実習などが行われました。参加した学生さんからは、「病院ごとの雰囲気を知ることができた」、「まだ大学で実習を行っていないが、モチベーションが上がった」という感想が出ました。



「実践編」の交流会では、県内病院の初期臨床研修医2名の講演があり、その後懇親会を開催しました。

普段あまり交流する機会がない院長や指導医と熱心に話をする学生さんの姿も見られました。県内病院の研修医や、他大学の学生さんとの交流も深められたようです。

来年も開催を予定していますので、ぜひご参加ください！

## メールマガジンの配信

医学生の皆さんに「富山県医学生だより」というメールマガジンをお送りしています！

富山県が主催するイベントはもちろん、富山大学附属病院からのお知らせや県内病院の最新情報なども配信中です。

最新情報をお届けしていますので、未登録の方は、ぜひご登録ください！！

ご希望の方は下記までご連絡ください。  
doctor-t@esp.pref.toyama.lg.jp

## e-residentへの掲載

臨床研修医情報サイト「e-resident」に富山県のページを掲載しています！

知事からのメッセージや富山県が主催する最新イベントのご案内、各臨床研修病院の紹介など、皆さんのお役に立つ情報をたくさん載せています。病院長や研修医のインタビューを掲載しています！ぜひ、ご覧ください！

臨床研修徹底解剖！  
**e-resident2013**



発行 (問合先)

富山県臨床研修病院連絡協議会 事務局 (富山県厚生部医務課内)

〒930-8501 富山市新総曲輪 1-7

TEL 076-444-3218 (直通)

FAX 076-444-3495

e-mail [doctor-t@esp.pref.toyama.lg.jp](mailto:doctor-t@esp.pref.toyama.lg.jp)

